

## (2) 相対度数

全体の度数が異なる資料を比べるときは、各階級の度数の全体に対する割合を求めて比べることができる。  
このようにして求めた割合を(相対度数)という。

$$\text{相対度数} = \frac{\text{その階級の度数}}{\text{度数の合計(全体)}}$$

(例) 10分以上15分未満の階級の相対度数は、

$$\frac{(10)}{\text{その階級の度数}} \div \frac{(30)}{\text{度数の合計}} = 0.333\dots$$

$$\frac{0.33}{\text{度数の合計}}$$

時間(分)	人数(人)
以上 未満	
0 ~ 5	2
5 ~ 10	5
10 ~ 15	10
15 ~ 20	7
20 ~ 25	4
25 ~ 30	2
合計	30

(3) 代表値 3種類あるよ。

① 平均値 ... 小学校で習った平均と同じ。

$$\text{平均値} = \frac{\text{階級値} \times \text{度数} \text{の合計} \textcircled{A}}{\text{度数の合計} \textcircled{B}}$$

$$\textcircled{A} \quad \textcircled{B}$$

$$435 \div 30 = 14.5 \text{ (分)}$$

階級値	度数
2.5	2 = 5
7.5	5 = 37.5
12.5	10 = 125
17.5	7 = 122.5
22.5	4 = 90
27.5	2 = 55
合計	30 : 435
	① : ②

② 中央値 (メジアン)

資料の値を大きさの順に並べたときの中央の値。

(例) 次の6人の体重の中央値は、

38 kg. 41 kg. 44 kg. 47 kg. 51 kg. 56 kg

$$\frac{44 + 47}{2} = \frac{91}{2} = 45.5 \text{ kg}$$

③ 最頻値 (モード)

資料の中で最も多く出てくる値のこと。度数分布表では、度数の最も多い階級の階級値を最頻値とする。

(例) 右上の表では、最頻値は(10分以上15分未満)の階級の階級値だから、 $\frac{10 + 15}{2} = \frac{25}{2} = 12.5$ 分。